



- 1 足跡と見られるくぼみにシリコンを流している様子
- 2 窪んだ時期と砂礫の堆積した時期が異なるため、その境界を確認しながら砂礫を取り出している様子
- 3 忠類小学校農園でかぼちゃの苗植えている様子
- 4 札幌円山動物園の加藤園長にかぼちゃの目録を贈呈

「かぼちゃプロジェクト」

札幌円山動物園にミャンマーから4頭のゾウが平成30年11月30日に空輸され、平成31年3月12日に公開されました。

化石象と現代象のゾウつながりで連携し、忠類小学校で育てたかぼちゃを同園のゾウさんにプレゼントする「かぼちゃプロジェクト」を実施しました。



Interview

インタビュー



北海道博物館
学芸主査
添田 雄二さん

50周年事業に協力いただいた方々や、地元の子ども達に今回の事業を通して感じたことを聞きました。今回は発掘調査にご協力いただいた2人のお話を紹介します。

忠類ナウマン象化石は第1級の資料です。その発見50周年記念事業の担当ができて、研究者として大変光栄でした。

子供たちが主役となった「かぼちゃプロジェクト」は、特に意義のある事業だったと思います。

また、発掘調査では足跡化石のような痕跡を2つ発見しました。他にもまだ発見できる可能性があり、是非また調査を実施できたらと思っています。



足寄動物化石博物館
館長 澤村 寛さん

念願が叶って、「忠類の発掘」に参加することができました。忠類晩成の現場は、新しい課題を発掘して確かめることができる素晴らしい場所だと感じました。

同時に、今年の調査は「狭い」「短い」という問題がありました。現場の拡張だけではなく、周辺を歩き回る地質調査や腰を落着けた発掘調査ができるといいな、というのも正直な想いです。

忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業



忠類ナウマン象の化石骨は、昭和44年7月26日に旧忠類村晩成の道路工事現場で発見されました。測量作業の助手をしていた少年が、ツルハシにカチンと当たったわらじのような石の塊を見て、「これは象の歯だ!」と断言したことがきっかけとなり、翌年本体発掘が行われ、日本で初めてとなるナウマン象一頭分の化石骨発掘につながりました。

今年で化石骨が発見されて50年の節目を迎えたことから、当時の状況を顧みて忠類ナウマン象の学術的価値と歴史を再認識することを目的に周年事業を展開しており、その取組をご紹介します。

50年ぶり、ナウマン象化石骨すべてが里帰り



マンモス象の実物大模型展示体験

日本でナウマン象とマンモス象の両方が発見されたのは、旧忠類村と北広島市だけです。

そのつながりで、北広島市の実物大模型のマンモス象をお借りし、忠類小学校・中学校の皆さんと一緒に特別展用の模型の組み立てを行いました。

手順
1

体の組み立て



手順
2

牙の装着



手順
3

毛並みの調整



手順
4

完成

